

くつみいせき 9. 沓見遺跡

所在地：敦賀市沓見

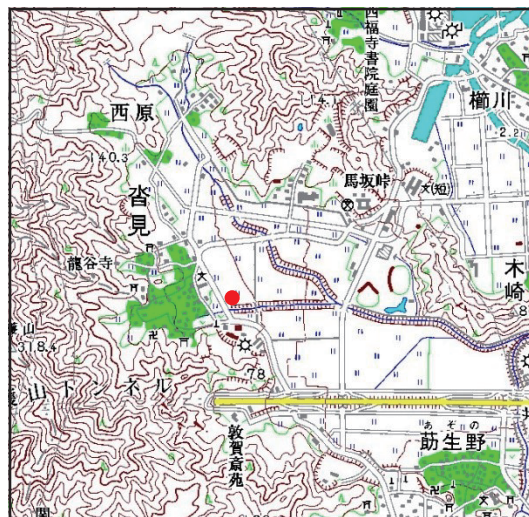
調査原因：ほ場整備

調査期間：令和2年5月1日～令和2年8月31日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：6,200 m²

時代：弥生時代・古墳時代・平安時代・
室町時代・江戸時代



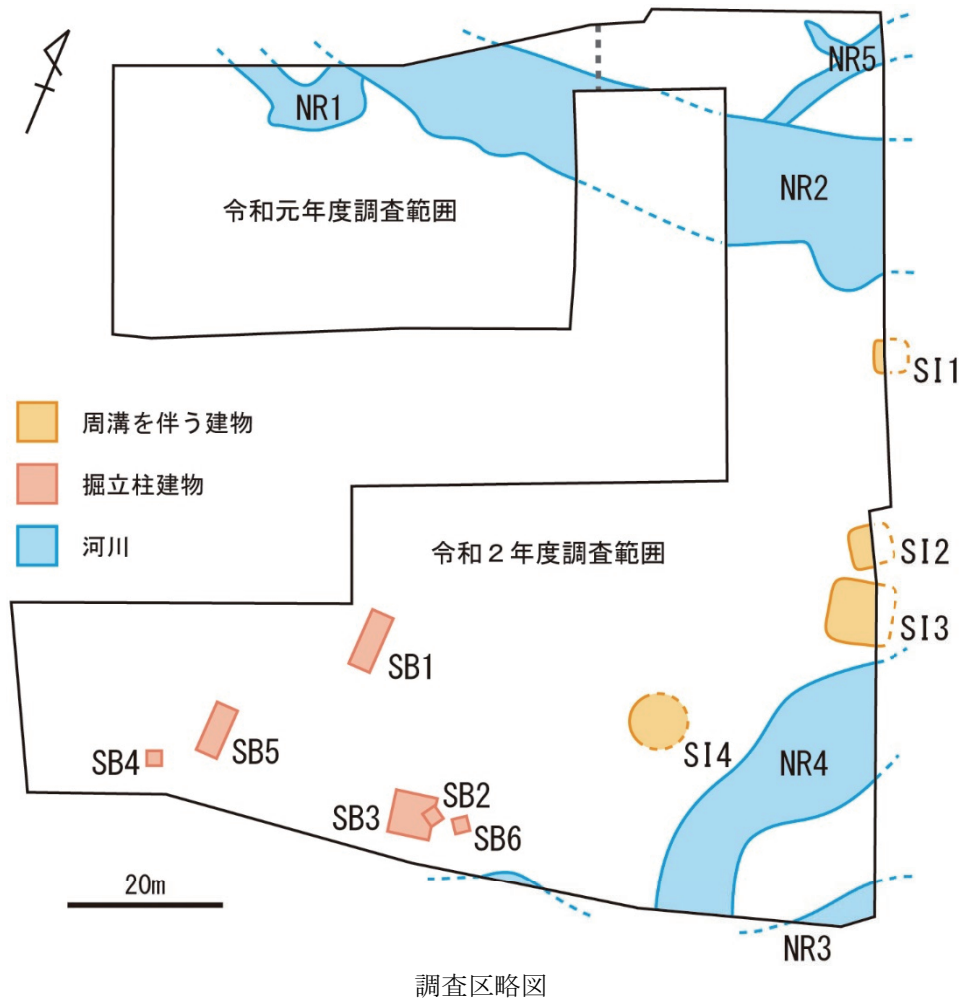
位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 遺跡は敦賀平野の西端に位置し、西側の山地から川によって運ばれた礫や砂の堆積によって形成された扇状地上に立地します。発掘調査は令和元・2年度に実施し、令和元年度の発掘調査では平安時代および江戸時代以降の河川を確認していました。今回の発掘調査では、前年度に確認した河川の延長部分や集落の確認を主な目的として実施しました。

遺構 周溝を伴う建物4棟 (SI 1～4)、掘立柱建物6棟 (SB 1～6)、河川4条 (NR 2～5)を確認しました。周溝を伴う建物は、弥生時代後期から古墳時代の住居です。複数棟の建物が調査区東側にまとまって立地していることや壺などの生活道具がこれらの遺構から出土したことから、弥生時代後期から古墳時代にかけての集落と考えています。また、NR 3～5も同じ時期の河川ですが、河川から出土した古墳時代の土器の多くは、上流から流れてきて散らばった破片の状態で出土したほか、周溝を伴う建物群の範囲は調査区外東方へ広がっています。このことから、当時の集落は後世の削平によって一部失われたものの、実際の集落の範囲は東西方向へさらに広がっていたと想定しています。掘立柱建物は平安時代の建物とみられ、建物が調査区西側に複数まとまって立地していることから、平安時代の集落と考えています。

遺物 出土した遺物には、弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・陶磁器があります。弥生土器や古墳時代の土師器には、甕・壺・高坏・器台など様々な種類があります。古墳時代の須恵器は5世紀中頃のものが多く、大阪府の陶邑古窯跡群などで生産された須恵器がこの地域に運ばれたものと考えています。平安時代の遺物には、須恵器の甕や坏 (9世紀)、灰釉陶器の壺・碗やロクロ成形の土師器皿 (10～11世紀)があります。

まとめ 敦賀平野西部で弥生時代から古墳時代の集落を実際に確認できたことは発掘調査の大きな成果です。弥生時代から続く集落がいくつか発掘されている敦賀平野東部に対して、平野西部の律令期以前の状況は明らかではありませんでしたが、住居や生活道具 (高坏・壺など)の確認によって、平野西部における当時の集落景観の一端を明らかにすることができました。また、古墳時代中期に貴重品として扱われていた須恵器が出土したことは、有力な豪族が本遺跡近辺にいた可能性を示しています。 (松本泰典)



SI 3 (周溝を伴う建物)



SB 3 (掘立柱建物)



NR 5 (河川) から土器が出土した様子